

幼児・児童の交通事故発生状況について

【概要】

○ 昨年の幼児(未就学児・就学児)の重傷者数は4人(前年比-1人、-20.0%)

【過去10年間】

○ 幼児の状態別死者数では、歩行中が75.0%、自動車乗車中が25.0%である。

○ 幼児の歩行中の死亡事故

- ・ 事故類型別では、道路横断中が33.3%を占める。
- ・ 法令違反別では、幼児のひとり歩きが66.7%を占める。
- ・ 相手当事者(原付以上)の危険認知速度別では、10km/h以下が33.3%を占める。

○ 幼児(6歳未満)の自動車乗車中の死亡事故

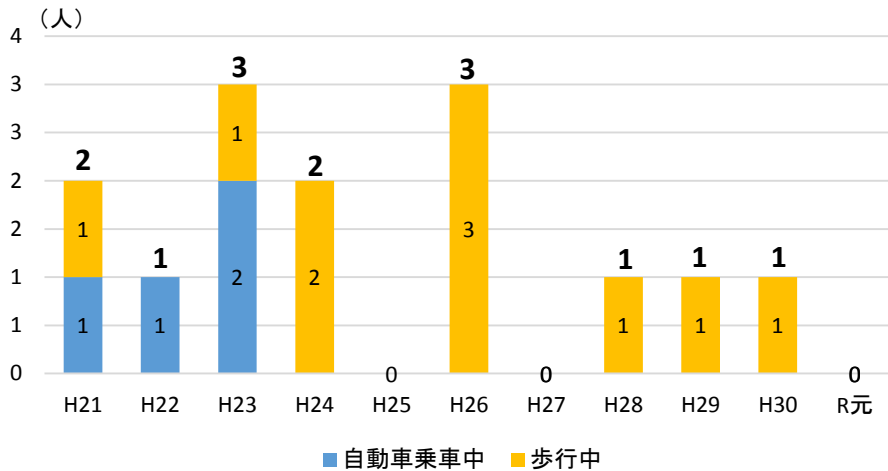
- ・ チャイルドシート使用状況別死者・重傷者数では、不適正使用及び不使用が58.3%を占める。
- ・ チャイルドシート不使用時の重傷率は、適正使用時と比較して約7.9倍高い。

○ 小学生の状態別死者数では、歩行中が62.5%で、全て1～2年生である。

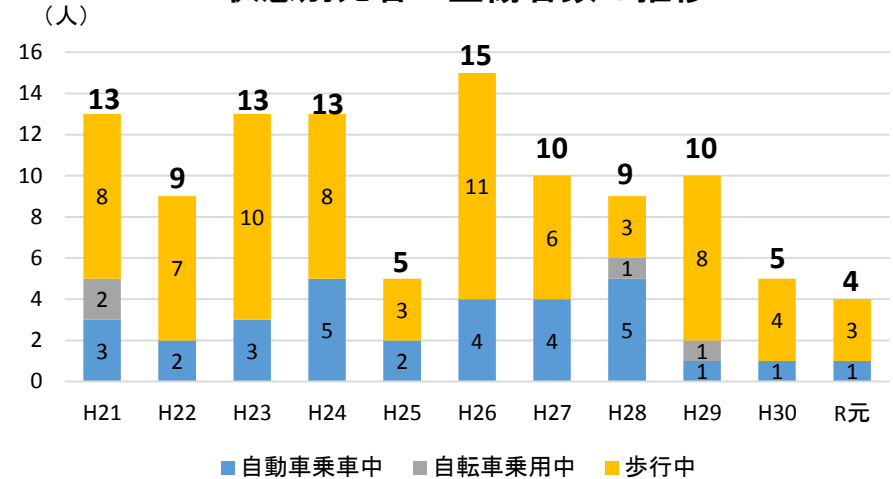
令和2年4月9日
長野県警察本部交通部
交通企画課

1 幼児の交通事故死者数の推移等

幼児（未就園児・就園児）の状態別交通事故死者数の推移

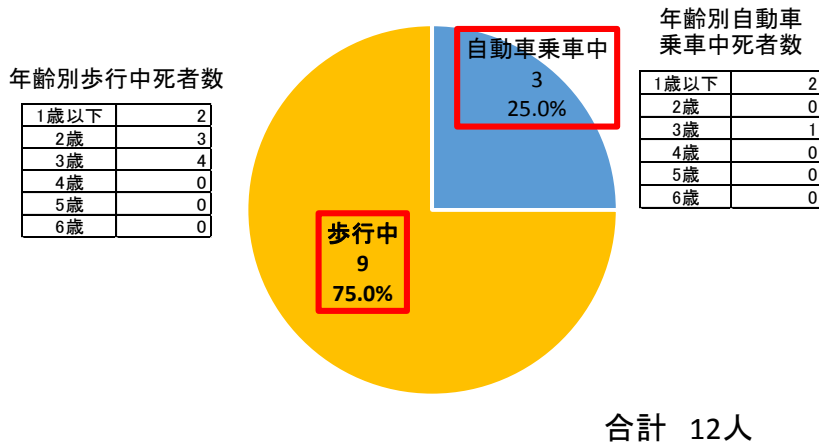


幼児（未就園児・就園児）の状態別死者・重傷者数の推移

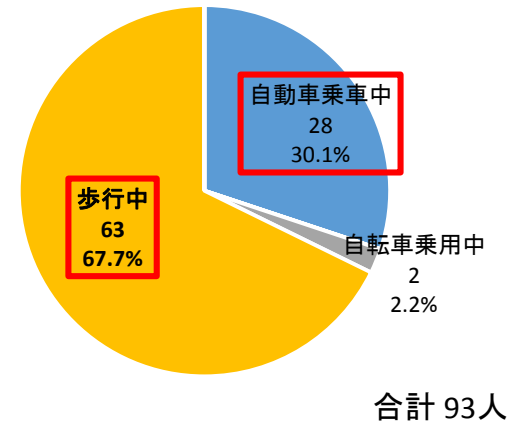


(注) 重傷者とは、交通事故により負傷した者であって1箇月(30日)以上の治療を要する者をいう(医師の診断を基準とする)。以下同じ。

幼児（未就園児・就園児）の状態別死者数 (平成22～令和元年合計)

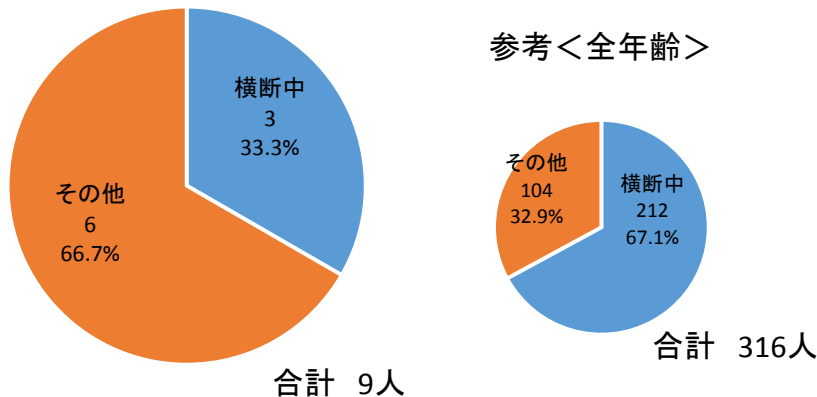


幼児（未就園児・就園児）の状態別死者・重傷者数 (平成22～令和元年合計)

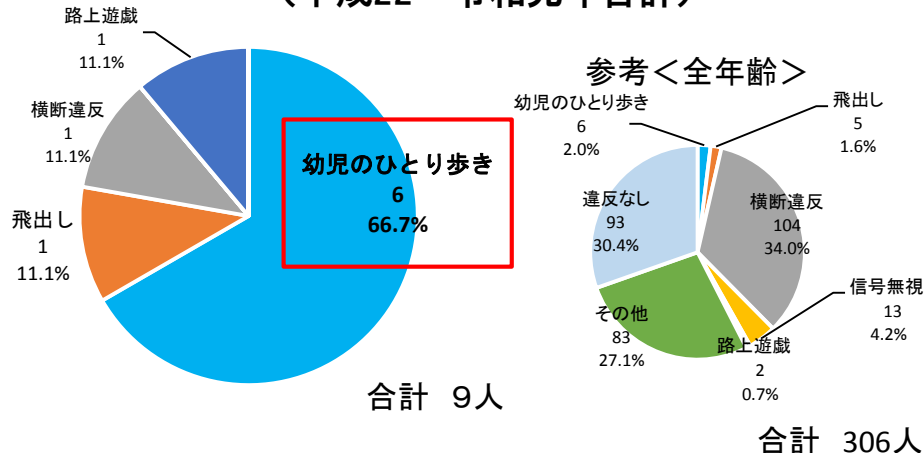


2 幼児の歩行中死亡事故に係る分析

歩行中幼児（未就園児・就園児）の
事故類型別死者数
（平成22～令和元年合計）

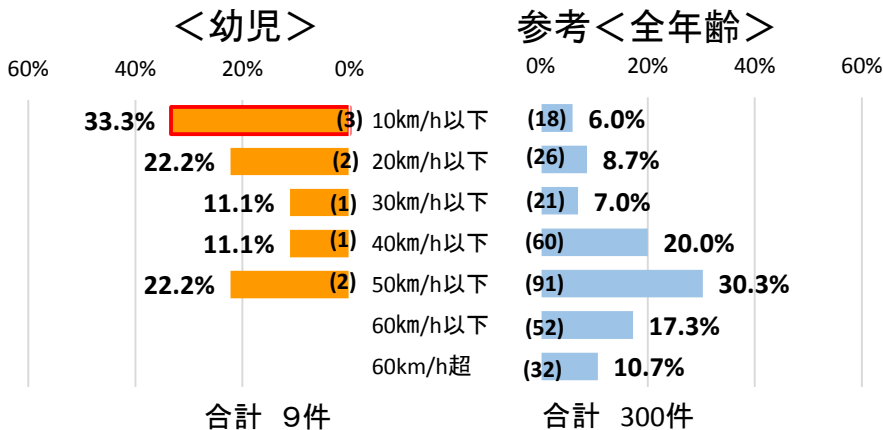


歩行中幼児（未就園児・就園児）の
法令違反別死者数
（平成22～令和元年合計）

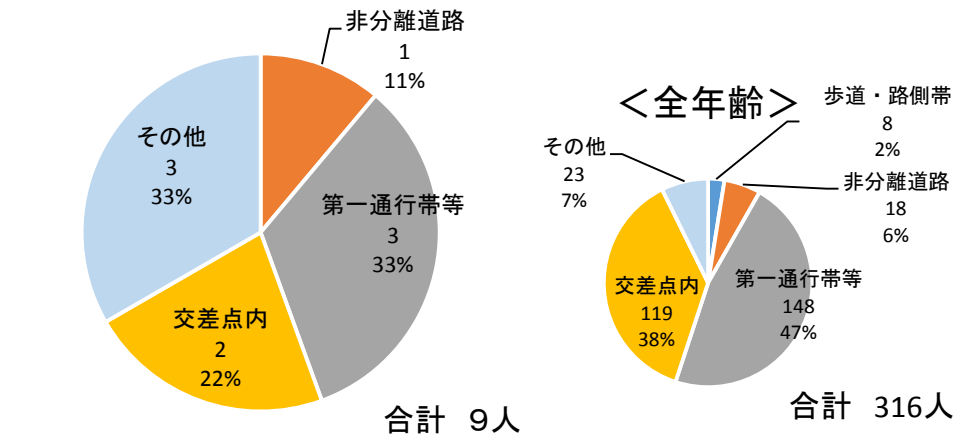


(注) ・ 幼児が第1又は第2当事者となった事故を計上した。
・ 「幼児のひとり歩き」とは、保護(監護)者の付き添わないものをいう。

歩行中幼児（未就園児・就園児）の死亡事故における
相手当事者（原付以上）の危険認知速度別構成率
（平成22～令和元年合計）



歩行中幼児（未就園児・就園児）の
衝突地点別死者数（平成22年～令和元年合計）

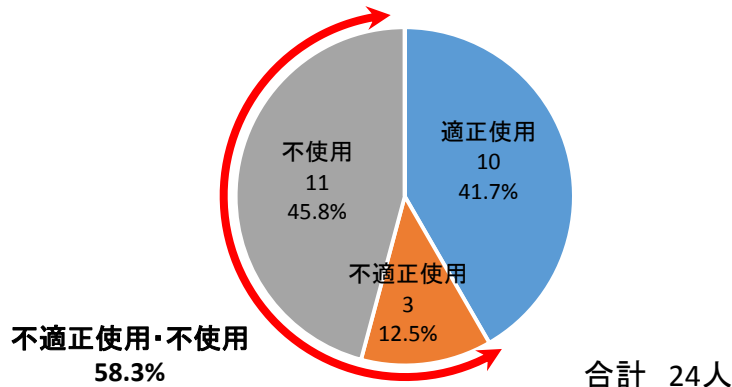


(注) ・ 「非分離道路」とは、中央線等により道路の中央が定められていない道路をいう。
・ 「第一通行帯」とは、中央線等により車両通行帯の設けられている道路の最も左側の通行帯をいう。以下同じ。

(注) ・ 事故類型「人対車両」のうち、歩行中死者が第1又は第2当事者となった事故の相手当事者（原付以上）の危険認知速度を計上した。10km/h以下には、停止中を含む。

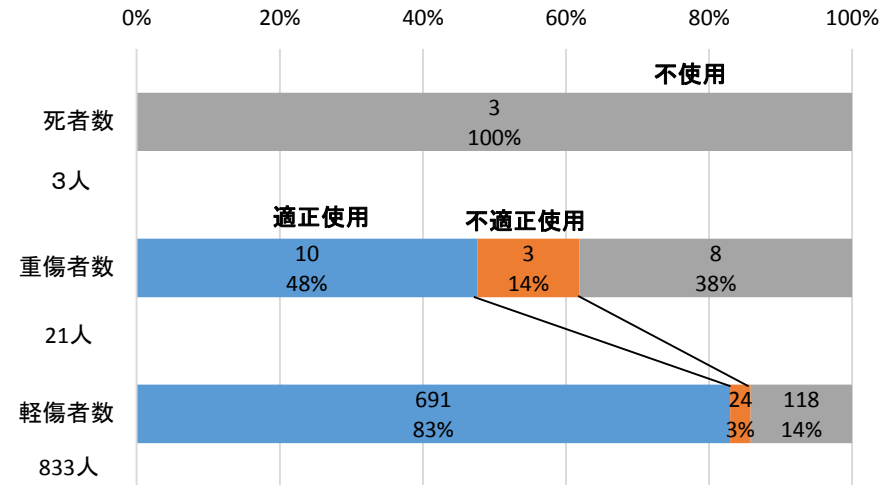
3 幼児の自動車乗車中(チャイルドシート使用状況)死亡事故に係る分析

自動車同乗中(6歳未満幼児)の
チャイルドシート使用状況別死者・重傷者数
(平成22～令和元年合計)



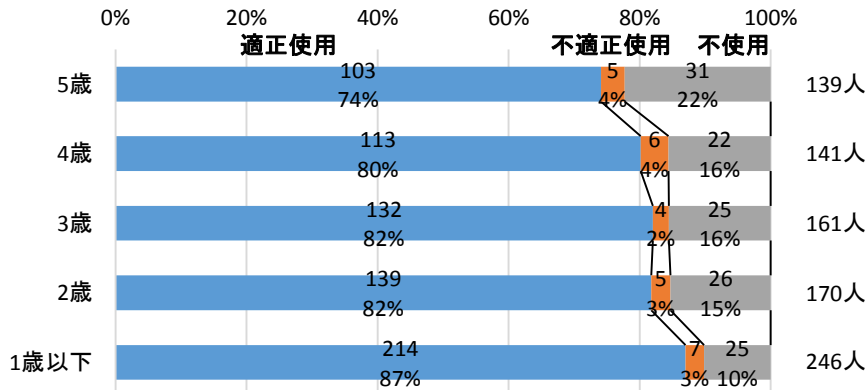
(注)・「適正使用」とは、チャイルドシートが車両に適正に固定され、かつ、幼児がチャイルドシートを適正に使用しているものをいう。以下同じ。
・「不適正使用」とは、事故により、チャイルドシートがシートベルトから完全に分離しているもの、幼児がチャイルドシートから飛び出した等をいう。以下同じ。

自動車同乗中(6歳未満幼児)の人身損傷程度別
チャイルドシート使用状況
(平成22～令和元年合計)



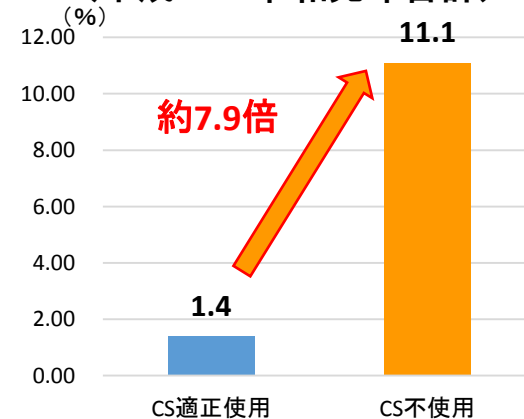
(注)・使用不明は除く。

自動車同乗中(6歳未満幼児)の
年齢別チャイルドシート使用状況別死傷者数
(平成22～令和元年合計)



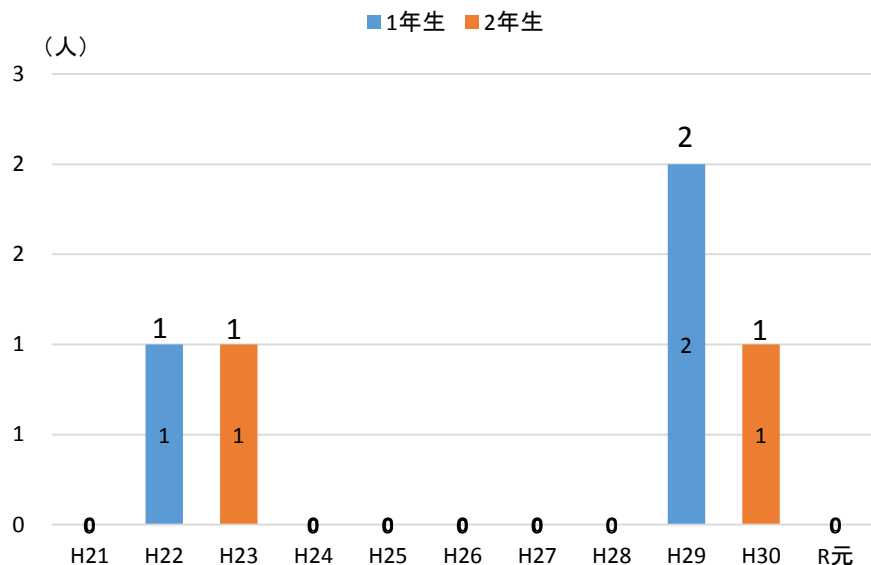
(注)・使用不明は除く。

自動車同乗中(6歳未満幼児)の
チャイルドシート使用別重傷率比較
(平成22～令和元年合計)

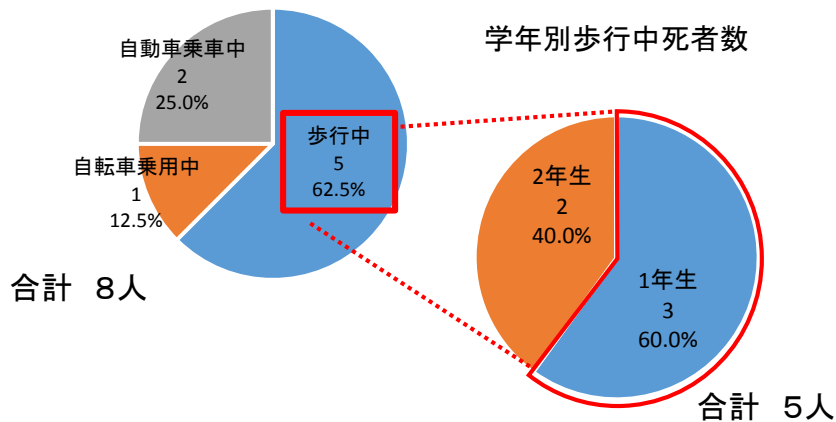


4 児童(小学生)の歩行中死者・重傷者数の推移等

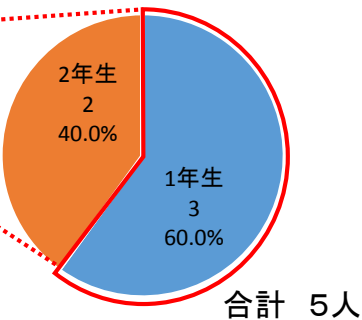
小学生の学年別歩行中死者数の推移



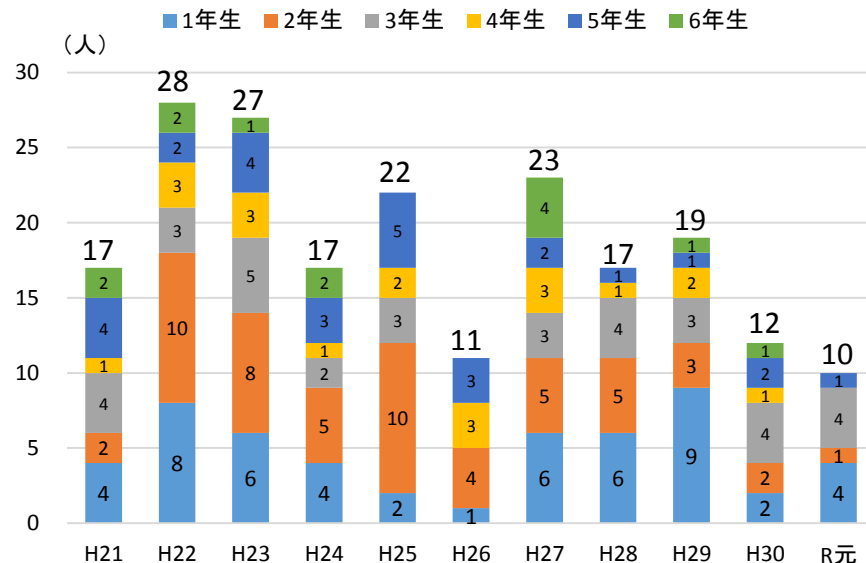
小学生の状態別死者数 (平成22～令和元年合計)



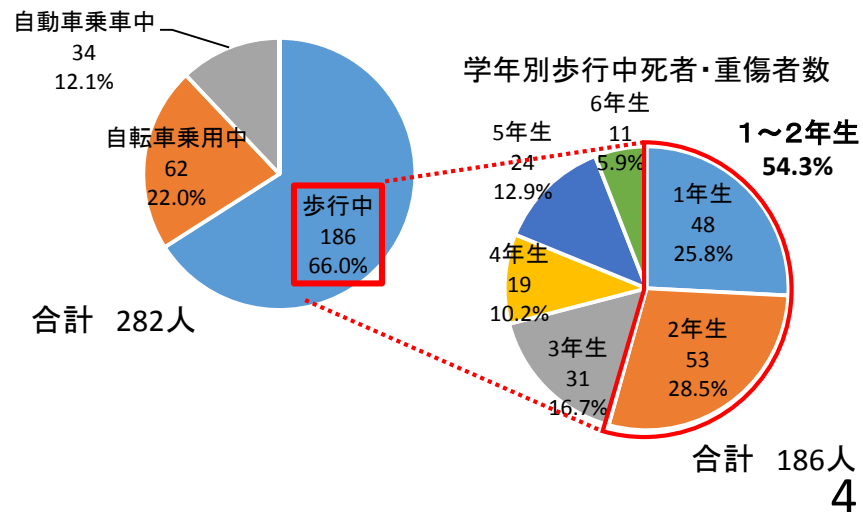
学年別歩行中死者数



小学生の学年別歩行中死者・重傷者数の推移



小学生の状態別死者・重傷者数 (平成22～令和元年合計)



学年別歩行中死者・重傷者数

